

フィールドワークからなにが見えるようになるのかといえば、
フィールドにある「もの」ではなく、「モノ」を通して自分自身を発見することなのである。
～重枝 豊～

遊ぶことは学ぶことである

GEP Quiz!

Question:

子どもが自力で解決できる
発達水準と、大人の援助
や指導によって解決が可
能な発達水準の差の範囲
を「発達の最近接領域」と
呼んだ人物は誰でしょう？

1. ジョン・デューイ
2. ピアジェ
3. ヴィゴツキー
4. フロイト

(答えは裏面に記載)

「職業は“Prophet of the earth”（地球の預言者）、夢は“Harmony with nature”（自然と人の調和）」これは、淡路島にある「淡路夢舞台」¹で実施したフィールドワークの参加者が、あるミッション（問い）に対して出した答えです。

新型コロナウイルスの影響で修学旅行の取りやめを余儀なくされた兵庫県の中学校が、グローバルをキーワードに地域から世界と未来を考えるフィールドワークを実施しました。参加者は、英語を使い、遊びを交えながら、地元が持つ価値について様々な「問い」や「ミッション」を通じて学びました。



楽しい問いが想像力、創造力を掻き立てる

フィールドワークでは『Actionbound』というアプリを使って、留学生やグループの仲間と協働し、様々なミッションに挑戦しました。

ミッションはグループ対抗型。獲得するポイント数を競います。ゲームのような楽しさに加えて、参加者の感性や創造性が活かされるように設計しました。



「淡路夢舞台を生き物にたとえると、その名前や職業、将来の夢は何でしょう？」

冒頭で紹介した参加者の答えは、この問いに対するものです。

¹ 「淡路夢舞台」は建築家 安藤忠雄氏により設計されました。経済活動により壊された自然を取り戻すため、動植物との共生を願って建設された施設群です。また、「百段苑」と言われる花壇は阪神淡路大震災の被災者への祈りの場とされています。

「淡路夢舞台」という場所を擬人化することで、その場所が持つ価値や訪れる人に与える印象、設計者が込めた思いなど、普段は見過ごしがちなその場所のもつ魅力に目を向けることができます。

GEP Quiz! 答え

Answer:

3. ヴィゴツキー

ロシアの心理学者レフ・ヴィゴツキーによって「最近接領域(ZPD)」が提唱されました。協働する留学生リーダーという他者の存在が、生徒の「できる」領域を増やすことに貢献し、子ども達の可能性が広がることを願っています。

Zone of Proximal Development (ZPD)



「できる」を広げる留学生という協働パートナーの存在



活動中の留学生の役割は、主役である参加者がグループの仲間と協力し合い、ミッションを遂行できるようにサポートすることです。

ミッションの存在は、留学生との協働とコミュニケーションの必然を生み、達成への意欲も掻き立てます。留学生について学んだことを、生徒が英語で紹介をする様子を撮影するというミッションでは、活動の序盤に見られた緊張を忘れて、夢中になって英語で話す生徒の姿が印象的で、嬉しくも感じる光景でした。

以下は、活動を体験した生徒のコメントの一部です。

- 英語を話すことや勉強することが楽しく感じるようになった。
- ミッションをみんなで楽しみながら協力して取り組めて楽しかった。

活動を通じて参加者は自然に英語を使い、そして、留学生やグループの仲間という「他者」の存在は、参加者の心境の変化や成長を後押ししてくれたようです。

地域から世界へ

私たちのフィールドワークを通じて、地元で参加者が挑戦することで広がる世界や、創造する楽しさを体験し、さらには好奇心からワクワクする未来へと動き出す。そんな支援ができればと願っています。

学校行事の限られた時間の中でも、参加者の世界と未来を広げる体験が提供できるよう、これからも様々な工夫をしながら学習者を中心とした学びの機会創造に取り組んでまいります。

この度は Newsletter 第 18 号を手にとっていただき、誠にありがとうございました。

これからも、日々増え続けている「学びの場面」の事例をピックアップしてご紹介させていただきます。

株式会社 LbE Japan (エルビージャパン) <http://www.lbejapan.co.jp> info@lbejapan.co.jp